

2020年1月

第30回(2019年度)タカシマヤ文化基金受賞決定

2019年11月21日(木)に行われました公益信託タカシマヤ文化基金運営委員会において、第30回タカシマヤ美術賞受賞者が決定いたしました。2019度の美術賞受賞者は現代美術の風間サチコ(カザマサチコ)さん、映像の小泉明郎(コイズミメイロウ)さん、現代美術のグループ contact Gonzo(コンタクトゴンゾ)さんの3組。

団体助成は、大原美術館、千葉市美術館、東京都現代美術館の3団体です。なお贈呈式は、2020年1月27日(月)午後6時より、日本工業倶楽部3階大ホールにて開催いたします。

タカシマヤ文化基金について

弊社はこれまで、豊かな生活文化の創造に貢献するため、「生活に美を、潤いを」を標榜、明治44年に美術部を創設し、和・洋問わず芸術作品を世に紹介して参りました。

近年国際化や情報化の進展に伴う社会環境の変化により、精神的・文化的な豊かさがより求められるようになる中、弊社は有能な作家の発掘支援と豊かな芸術文化の創造をめざし、平成2年に「公益信託タカシマヤ文化基金」を設立し、新鋭作家個人への助成、および美術文化の発展に寄与した団体への助成を行っております。毎年「タカシマヤ美術賞」として作家個人には200万円、そして団体に対しましては総額200万円を上限とした支援を行っております。

I 『タカシマヤ美術賞(助成金 各200万円)』

● カザマ 風間 サチコ<現代美術>



風間 サチコさん 撮影:朝海陽子



「ローレライ」

2019年 撮影:柳原良平



「ヴァルハラ」2019年 撮影:柳原良平

1972年東京生まれ、東京都在住。1996年武蔵野美術学園版画研究科修了。

「現在」起きている現象の根源を「過去」に探り、「未来」に垂れこむ暗雲を予兆させる黒い木版画を中心に制作する。一つの画面に様々なモチーフが盛り込まれて構成された木版画は、漫画風でナンセンス。黒一色のみの単色でありながら濃淡を駆使するなど多彩な表現を試み、彫刻刀によるシャープな描線によってきわどいテーマを巧みに表現している。

<主な展覧会・受賞歴>

2019年「第1回 Tokyo Contemporary Art Award」

2017年「ヨコハマトリエンナーレ 2017 島と星座とガラパゴス」
(横浜美術館、神奈川)

2016年「第8回創造する伝統賞」

● コイズミ メイロウ
小泉 明郎<映像>



小泉明郎さん

撮影: Matadero Madrid/Photo:Bego Solis



「証言の天使たち」ビデオ・インスタレーション 2019年

1976年群馬県生まれ、横浜市在住。1999年国際基督教大学卒業。

2002年ロンドンのチェルシー芸術デザイン大学にて映像表現を学ぶ。

主に“映像の強度”を追求した作品を創り続けている気鋭の作家。日本の文化に根ざした社会的慣習や個人的罪悪感などに迫り、精神の複雑さを探る作品を制作している。ともすると、ただきわどいだけの作品のなってしまうかねないテーマを、着実に説得的で迫真の映像にまとめることのできる演出能力とプレゼンテーション能力は、同世代の作家の中でも群を抜いている。



「証言の天使たち」ビデオ・インスタレーション 2019年

<主な展覧会・受賞歴>

2020年「Artes Mundi9」ノミネート

2019年「愛知トリエンナーレ 2019 情の時代」

2019年「第14回シャルジャ・ビエンナーレ」(シャルジャ、アラブ首長国連邦)

2018年「バトルランズ」(ペレス・アートミュージアム、マイアミ、アメリカ)

2013年 NY 近代美術館個展 (ニューヨーク、アメリカ)

● contact Gonzo (コンタクトゴンゾ) <現代美術>



contact Gonzo



「wow, see you in the life」contact Gonzo × YCAM バイオサーチ
撮影: 守屋友樹 写真提供: 山口情報芸術センター[YCAM]

2006年に垣尾優さんと塚原悠也さんにより結成。肉体の衝突を起点とする独自の牧歌的崇高論を構築し、即興的なパフォーマンス作品や映像、写真作品の制作、マガジンの編集などを行う。contact Gonzo とは、集団の名称であると同時に彼らが実践する方法論の名称でもあり、その背後には山がある。現在、様々な果物を時速100キロで身体に打ち込む行為や山中の斜面を滑り降りる「山サーフィン」を開発。



「shelters」2009年 撮影:contact Gonzo

現メンバーは塚原悠也さん、三ヶ尻敬悟さん、松見拓也さん、NAZEさんの4名で、個々においてもそれぞれの分野で作品を発表している。2011年よりセゾン文化財団のフェロー助成対象アーティストとして採択された。

<主な展覧会・受賞歴>

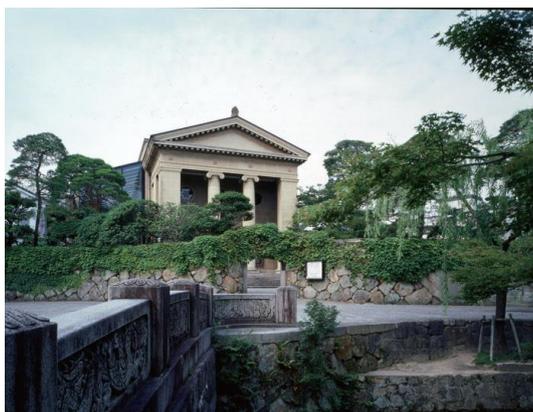
2019年「第27回読売演劇大賞」ノミネート

2018年「鹿を殺すと残る雪」(京都芸術センター)

2017年「フィジカトピア展」(ワタリウム美術館)

2010年「六本木クロッシング」(森美術館)

II 『団体助成（助成金 3 団体で200万円）』



○公益財団法人 大原美術館

大原美術館は、1930年に実業家大原孫三郎が設立しました。西洋の美術作品を本格的に展示した日本最初の美術館です。その大原へ提言し、1910年から20年代の3度の渡欧を通じて、大原が提供する資金により、美術館の礎となる作品を収集したのは、自身も作家である児島虎次郎でした。

これまでも児島虎次郎の活動、そして大原美術館の歴史について、断続的に調査研究を進めてきましたが、この度の助成により児島による作品収集に関わる日記、手紙、作品購入領

収書等の調査とデータベース化を行います。これらのうち西洋近代美術作品については開館90周年特別展として、その成果を公開する予定です。

○公益財団法人 千葉市教育振興財団千葉市美術館

千葉市美術館は1995年の開館以来、千葉市を中心とした房総ゆかりの作家・作品を収集の一つのテーマにしております。

その中で近年多数の寄贈・寄託を受けた千葉市ゆかりの作家『田中一村』の作品と関係資料の修復・保存・公開を行うための準備を進めています。2010年に開催し大きな反響があった「田中一村 新たなる全貌」展から10年。この間に千葉市美術館に収蔵された作品資料は約100点を数えます。新たな資料を整理し、これまで公開が難しかった一部資料も保存措置を施すことなどにより画家の知られざる側面の紹介を目指していきます。具体的には①作品・資料の画像化、②展示に向けての修復・表装・額装、③展覧会パンフレットの刊行等の一部に助成金を活用していきます。



○東京都歴史文化財団 東京都現代美術館

東京都現代美術館は、1945年以降の国内外の現代美術を体系的に研究、収集、保存、展示するために1995年に開館しました。より開かれた美術館を目指し、設備の改修と利便性の向上を図るためおよそ3年にわたる休館を経て、2019年3月29日にリニューアルオープンを迎えました。2020年春には、パリとサンフランシスコを拠点に現代美術の収集やアーティストの支援を行っているカディスト・アート・ファウンデーションとの共同企画による展覧会「もつれるものたち」および国際シンポジウムを実施いたします。日仏だけでなく、アフリカやアジアの美術界の動向も紹介すべく、それぞれの地域やコミュニティにおいて現代美術の制作と実践に携わってきた登壇者を招聘する予定であり、その諸費用に助成金を活用します。



※コメントは各館より頂戴したものです。

以上